

ラリア内陸部のアウト
停車する伝説の大陸縦
he Ghan」。列車の全長
、日本の新幹線の約2
長 2,979km を 54時間
け抜ける。



TRAVEL

THE GHAN

SPIRIT OF AUSTRALIA

The Ghan's Journey through The Heart of The Continent
オーストラリアの伝説の列車、大陸縦断鉄道「ザ・ガン」3,000キロの旅

オーストラリアの鉄道会社「グレートサザンレール」が運営する3つのクルーズトレイン。
なかでも伝説の列車と称される大陸縦断鉄道「ザ・ガン」は、トップエンドと呼ばれる最北の街ダーウィンから、
赤い大地が支配するレッドセンターを越え、緑豊かな南岸の街アデレードを結ぶ。
かつて開拓者たちがラクダの隊列とともに歩いたこのルートは、究極の旅を意味する「ザ・ガン」となり、今も人々の夢を運ぶ。

text: Hiromi Suzuki photo: Ryoichi Sato
special thanks: Tourism Australia www.australia.jp
Great Southern Rail www.gsr-japan.com

トップエンドから始まる旅 出発地 ダーウィンから キャサリンへ

オーストラリアの最北端に位置する街ダーウィンはティモール海に面し、豊かな熱帯雨林の緑に囲まれたノーザンテリトリーの州都だ。「最北端」と聞くと寒々しいイメージだが、南半球にあるので赤道に近いことを意味し、冬の時期でも気温は30℃ほどある。

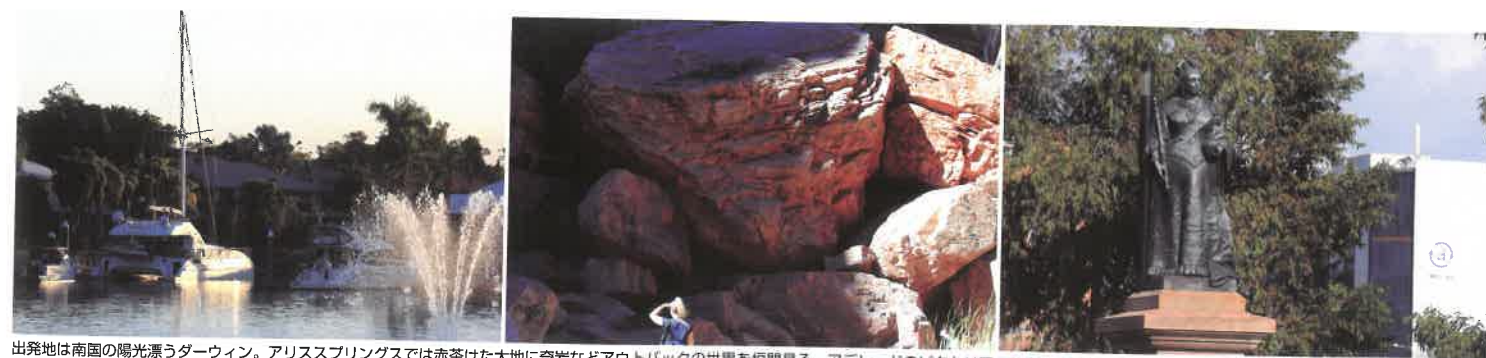
夕方、ウォーターフロントを訪れると、美しいクルーザーがずらりと係留されたマリナーが斜陽に照らされ、全てが黄金色に輝いていた。すぐそばのビーチパークでは、平日にも関わらず家族連れやカップルが芝生に寝転びながら、あるいはデッキチェアとワインを持参してゴージャスなサンセットを楽しんでいる。まるで楽園のようなところだ。

そんなダーウィンの街の外れにある小さな駅から鉄道旅は始まる。「私

は一年前に予約をしてこの日が来るのを指折り数えて待っていたの。「ザ・ガン」はみんなの憧れの旅なのよ」駅へと向かう送迎車の隣に座った女性が熱く語っていた。

ホームでは、最後尾が見えないほどの車両が連結する「ザ・ガン」が待っていた。チェックインを済ませ、これから3泊を過ごすキャビンがあるQ車両へ。日本の新幹線の全長がおおよそ400m。「ザ・ガン」はその倍以上ある。ようやくQ車両にたどり着くと、ホストを務めるコンシェルジュにキャビンを案内される。ゴールドサービスのツインは、ラウンジシートが2段ベッドの寝台に変わるバストイレ付きの個室で電源も十分にある。ホテルに比べれば広さはないものの、機能的でコンパクトにまとまっている。ソファに腰を下ろしてみると、これがなかなか居心地良い。

「ザ・ガン」は、50人のクルーと238人のゲストを乗せ、約300キロ南のキャサリンへ向けて駅を滑り出た。アウトバック・エクスプローラー・



出発地は南国の陽光漂うダーウィン。アリススプリングスでは赤茶けた大地に奇岩などアウトバックの世界を垣間見る。アデレードのビクトリア・スクエアには旧宗主国イギリスのビクトリア女王像も。



on]はダーウィンからアデレードを結ぶ唯一の陸路鉄道。沿線には歴史的遺産が散在し、オージーにとって人生で一度は体験してみたい夢のクルーズトレインと称えられている。

では、すでに多くのゲストが車窓を眺めながらワインやビールに楽しんでいる。「ザ・ガン」はゴールドクラスの他にプラチナクラスも用意され、共に列車内での全食事にアルコールを含めたドリンクも用意されているので、列車で過ごす3日間、財布は金持ちになっておく。

最初の停車地となるキャサリンは、ニトミルク国立公園の玄関口。列車が川沿いに進むと、渓谷が織り成すダイナミックな風景を眺めながら、キャサリン川クルーズに出発だ。川面から見上げる渓谷の荒々しさ、自然が悠久の時間をかけて創り出した壮大な景観に圧倒される。川岸には体長2メートルほどのワニがいた。このあたりに生息するオーストラリア・ワニという

固有種だ。人間には無害だという。むしろおとなしいゆえに乱獲され生息数が減少し、現在は保護の対象とされているそうだ。

オフトレイン・エクスカーションを終え、列車に戻るとほどなくしてディナーの時間となる。専任シェフによる3コースが用意されるが、この列車は正装が求められないのがいい。料理はいずれもオーストラリア産の食材にこだわり、洗練された味つけとプレゼンテーションの美しさは文句のつけようがない。

それにしても、乗車後すぐのランチ時では1人で食事をする姿が見受けられたが、ディナー時にひとりで座っている人はもういない。「ザ・ガン」の旅は限られた空間の中、時間を共にすることで多くの人と知り合う場でもある。これもクルーズ・トレインの醍醐味だ。



最初の玄関口であるダーウィンは夕陽の名勝。ゆっくりと寛げるアウトバック エクスプローラー ラウンジでは、ゲスト同士の交流も自然に生まれる。右は最初の停車駅となるキャサリン。



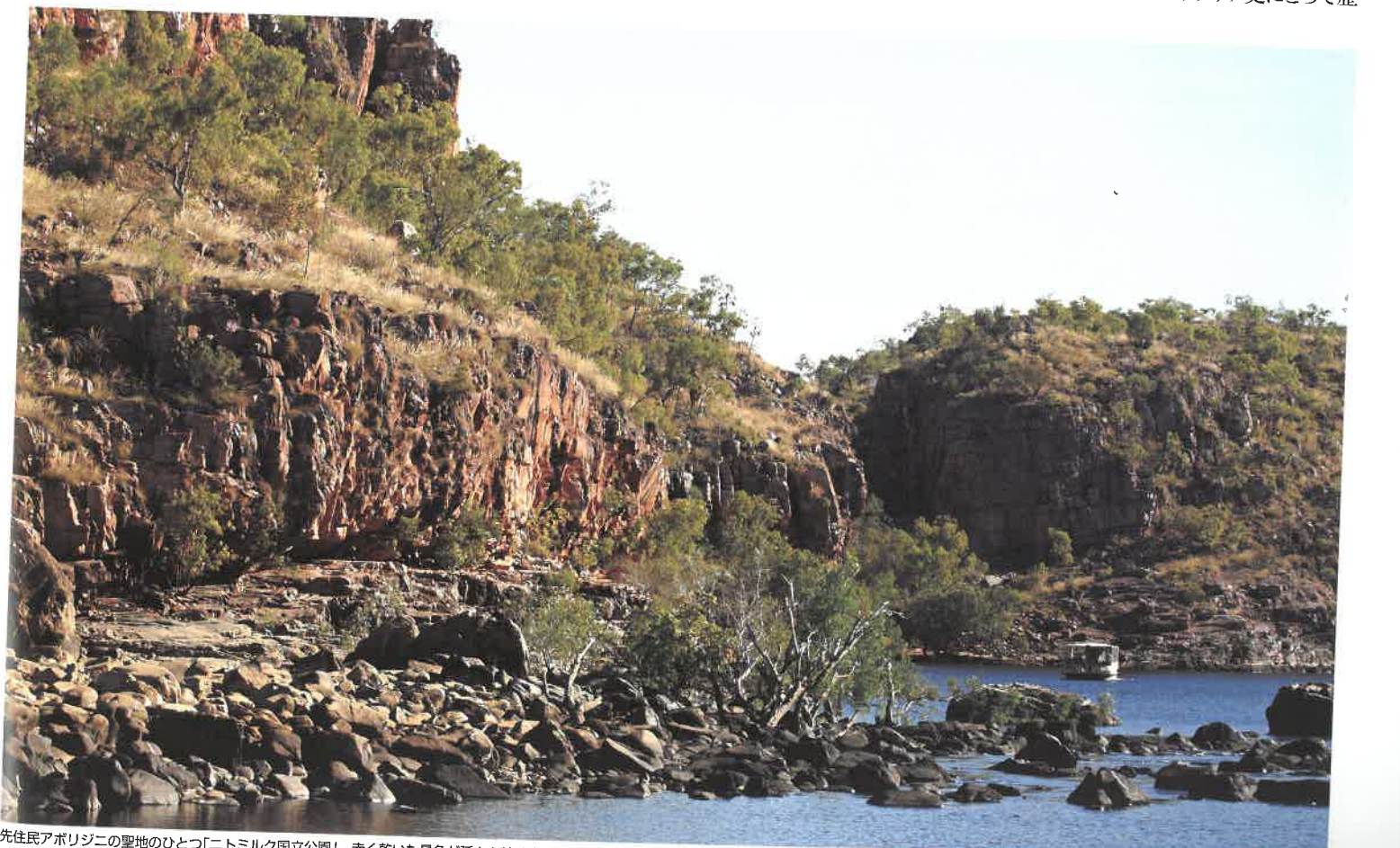
クラシックな雰囲気漂う「クイーン アデレード レストラン」。専任シェフによる食事もオールインクルーシブだ。ラウンジシートが夜間は寝台となる、ゴールドサービスのゴールドツイン客室。

赤土の荒野 レッドセンターから クーバーピディ そして終着地 アデレードへ

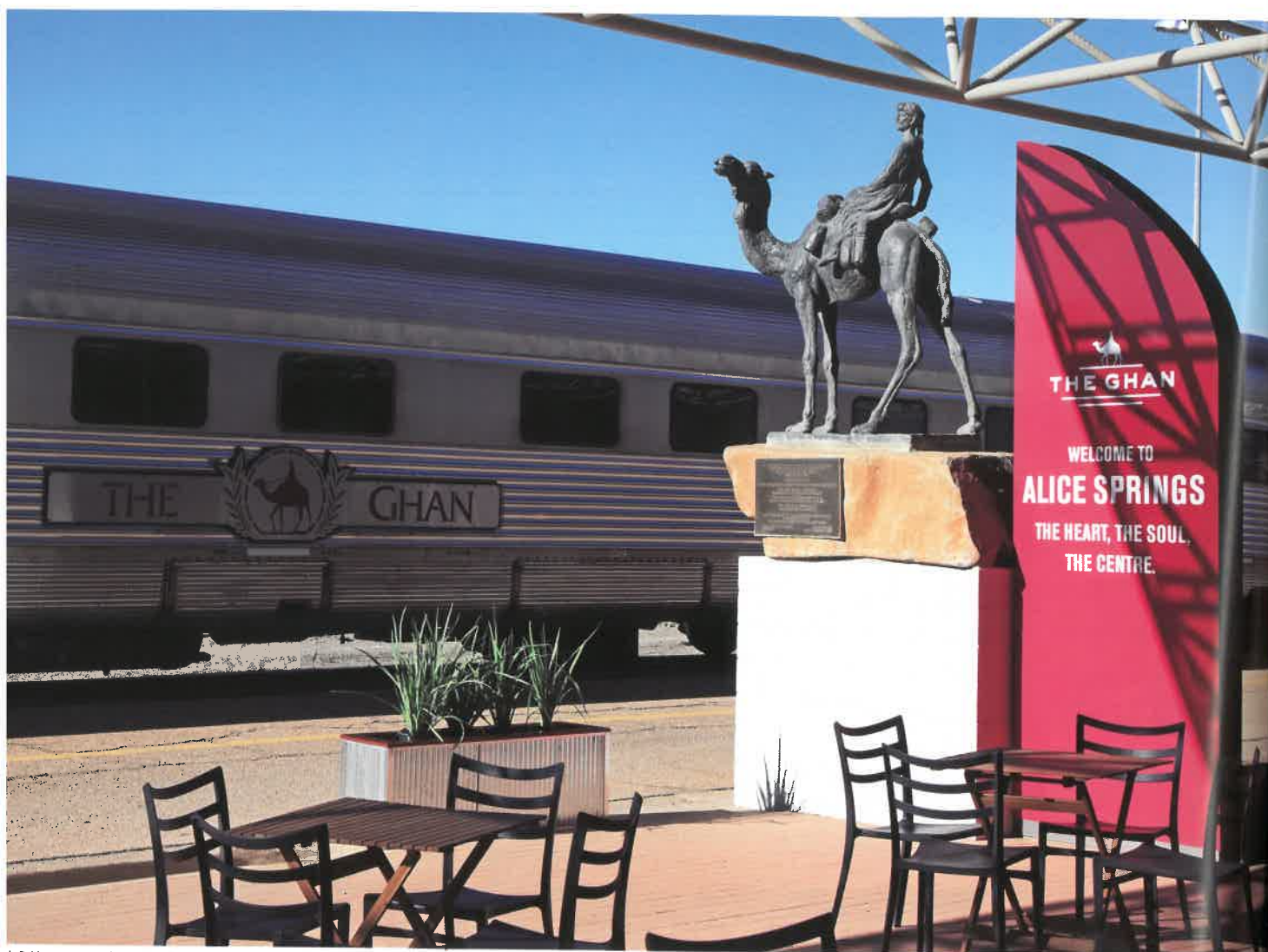
空が眠りから覚め、大地と空が赤く染まってゆく。低木と乾いた草がひたすら続く。これがアウトバックの朝の風景か……。車窓から流れる景色を見ていると、一匹のカンガルーが列車を追いかけるように走っていた。いよいよオーストラリアらしい風景になってきた。アリススプリングスは、オーストラリア大陸のど真ん中に位置し、広大なアウトバックに築かれた最初の街だ。当時、全くの未開であった内陸部の調査は、オー

ストラリアを植民地としていたイギリスにとっては急務であり、目的は電信中継所の設置であった。しかし沿岸部からの調査は、アウトバック特有の熱さなどで困難を極めたという。その調査時にアフガニスタンから連れてこられたラクダを輸送力として利用し、開拓者たちは偉業を達成したのだ。「ザ・ガン」の名称やロゴマークは、未開の内陸部を切り開いたこのラクダたちに敬意を表し、アフガニスタンからきたラクダだったことから「アフガニスタン」が「アフガン」、さらに省略され、そこに「The」をつけて「ザ・ガン」となった。

日中のオフトレイン・エクスカーションで参加したデザート・ウォークの後には、アリススプリングス・テレグラフ・ステーション歴史保護区(旧電信中継所)で、オージースタイルのBBQナイトだ。オーストラリア史にとって歴



先住民アボリジニの聖地のひとつ「ニトミルク国立公園」。赤く乾いた景色が延々と続く中、ノーザン・テリトリーのキャサリン渓谷でのポートツアーは、水と緑がゲストの心を潤す。



中心地 アリスプリングス駅には、「The Ghan」の名の由来となったラクダのモニュメントが立つ。かつて開拓者の輸送力となったアフガニスタンのラクダ、その「アフガニスタン」が「アフガン」に省略された。

で、大いに飲み食い、生バンドが演奏する往年のヒット曲に
 るで野外ライブのように平均年齢70歳を越える男女が、南十
 空の下で軽やかにステップを踏んでいる。誠に恐れ入った。
 車地となるクーバービディは、オーストラリア南部のアウト
 人口2,000人ほどの小さな街。夏は気温が50℃近くまで
 環境だ。人の気配がない荒涼とした風景は、映画「マッド

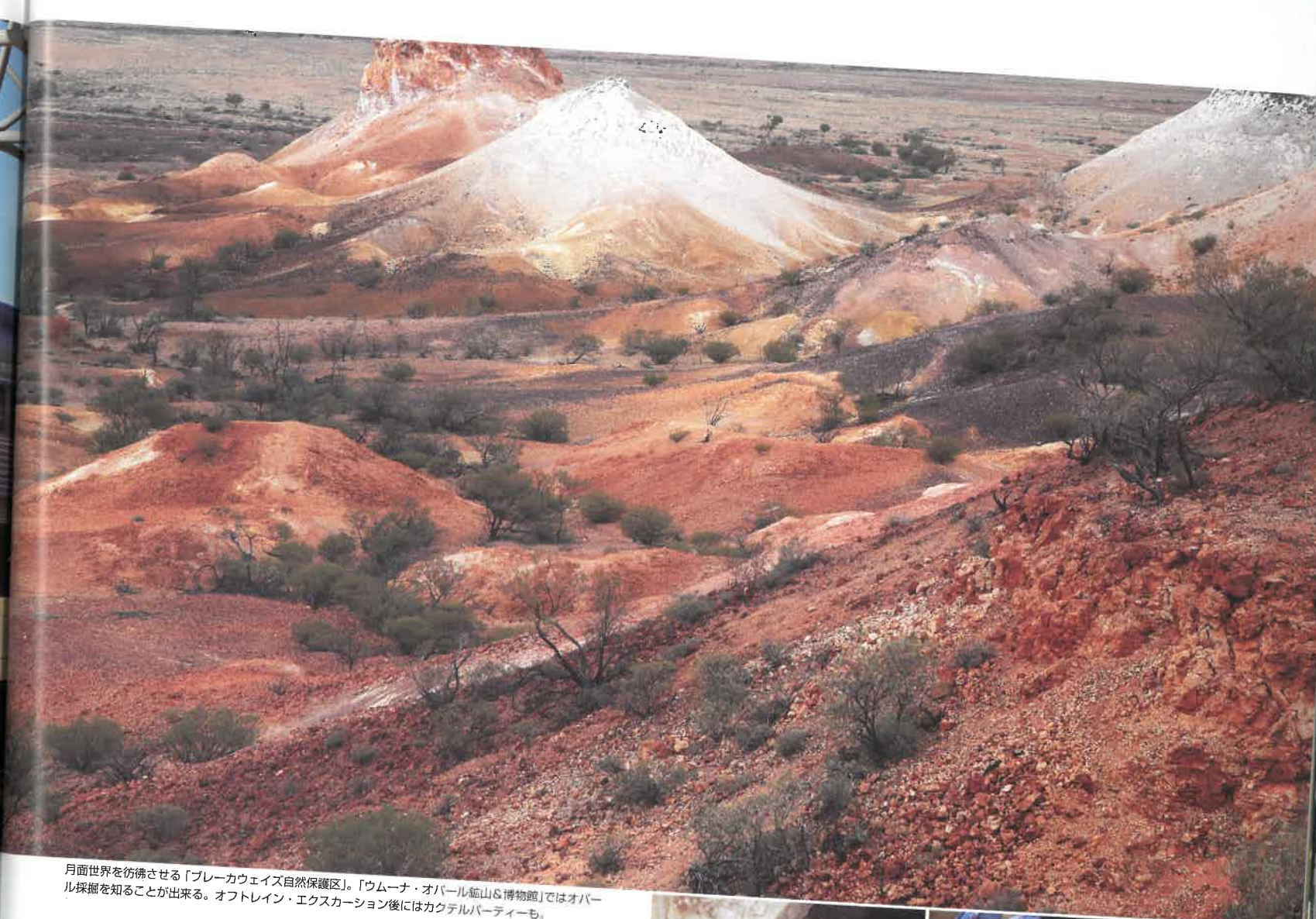


慢食で残された
 巨岩メサを従える
 「ウエストマク
 ドネル国立公園」、
 「シン普森・ギ
 ャブ」のロックウ
 ラビー。「アリス
 スプリングス・テ
 レグラフ・ステー
 ション歴史保護
 区」では、オー
 スティルのBBQ
 をゲスト全員で
 楽しんだ。

マックス/サンダードーム」のロケ地にもなっている。またここは、世界
 最大のオパール産地で、一攫千金を求める50か国もの人々がオパール
 採掘で生計を立てている。厳しい夏の暑さとオパール採掘により、住人
 は丘陵の横に掘ったダグアウトハウスと呼ばれる洞窟に住み、地下の坑
 道で働く生活を送っている「地底都市」なのだ。

このオフトレイン・エクスカーションでは坑道跡を見学。今も砂岩
 の層と層の間にオパールの原石が輝いている。「こっそり掘って山分け
 しましょう」隣のご婦人が耳元で囁いた。安全のためにかぶっていた
 「ザ・ガン」のロゴ入りヘルメットはお土産に持たされが、ゲストはたい
 そう嬉しそうにサイズを調整し、移動のバスの中でも、列車が発つ前に
 行われたサンセット・カクテルパーティーの時ですら、ヘルメットをか
 ぶったままのおかしな光景が広がっていた。

最後のディナー時、突然照明が落ちるハプニングが起きた。直に照明
 は元に戻ったが、その間に一人のご婦人に誕生日ケーキが歌とともに運
 ばれた。ダイニングにいた乗客全員でパースデーソングを歌い、心から



月面世界を彷彿させる「プレーカウエイズ自然保護区」。「ウムーナ・オパール鉱山&博物館」ではオパール採掘を知ることが出来る。オフトレイン・エクスカーション後にはカクテルパーティーも。

祝福をした。これも約3,000キロをともにした「ザ・ガン」で結ばれた縁
 というものだろう。

目が覚めると、赤土のレッドセンターから、緑が映える牧草地帯の景色
 に変わっていた。朝食を済ませる頃には家並みが続く街らしい景観に変
 わり、ちょっとした淋しさを覚える。終着駅のアデレードはもう近いようだ。

スーツケースを降ろし出会った多くの人と両頬を寄せて、これから先
 の旅の安全を祈り別れを惜しむ。究極の冒険、「ザ・ガン」の旅。「死ぬ
 までに体験したい」特別な旅にラインナップされるのも納得だ。P.B.



誕生日を迎えたゲストにケーキを振る舞うなど、細かな配慮も究極の冒険列車と言われる所以だ。「安全にそして最高の旅を」と語るザ・ガンのコンシェルジュ。



TRAVEL INFORMATION

- オーストラリア政府観光局
www.australia.jp
- グレートサザンレール
www.gsr-japan.com



YouTube

Qantas Airways
 オーストラリアへはカンタス航空で

ダーウィンへのフライトは、ブリスベン経由なら、いち早く到着することができ
 る。成田〜ブリスベンは、エアバス A330 が毎日運航。ビジネスクラスでは離
 陸から着陸までシートリクライニングが利用可能なフルフラットベッドで、到
 着まで快適かつ自由な時間を。エコノミークラスでは人間工学的に設計され
 たスリムシートを搭載。ヘッドレストには調節可能なウイング、座席部には腰
 サポートが埋め込まれており、長時間のフ
 ライトも快適な座り心地だ。さらに預け手
 荷物許容量はエコノミークラスでも30kg
 まで無料。世界で最も長く継続して運航し
 ている航空会社の実力を体験してほしい。
www.qantas.com

